

イカナゴ親魚調査結果概要

香川県水産試験場

平成 23 年 12 月 20 日及び 12 月 27 日の計 2 回、高松～庵治地先において空釣りこぎによる親魚調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。

1. 親魚密度

- ・速力 3～5 ノットで 1 地点 5 分曳きを図 1 に示す 5 地点において実施した。
(漁業者の要望により、今年度から高松地区の調査地点を St.3 から St.2 に変更した。)
- ・親魚密度（空釣りこぎ 1 回当たりの採集尾数）は 10.2 尾で、昨年の 14.2 尾を下回った。
- ・年齢組成は 0 才魚が 71.3 %，1 才魚以上が 28.7 %で、昨年と比べると 1 才魚以上の割合が増加した。 *年齢の起算日は 1 月 1 日

表 1 親魚密度，年齢組成

	0才			1才以上			全体
	親魚密度 (尾/回)	割合	全長 (mm)	親魚密度 (尾/回)	割合	全長 (mm)	親魚密度 (尾/回)
H18 12月	23.8	45.2	77.1	28.8	54.8	119.6	52.6
H19 12月	4.4	46.0	83.7	5.2	51.0	111.5	9.6
H20 12月	7.4	96.0	89.2	0.3	4.0	124.6	7.7
H21 12月	1.6	31.0	90.2	14.2	69.0	130.5	5.3
H22 12月	14.2	99.5	88.9	0.1	0.5	141.6	14.2
H23 8月	11.7	82.2	76.9	2.6	17.8	126.4	14.3
H23 12月	7.4	71.3	78.9	2.8	28.7	127.2	10.2

※親魚密度は空釣りこぎ 1 回あたりの採集尾数を示す。

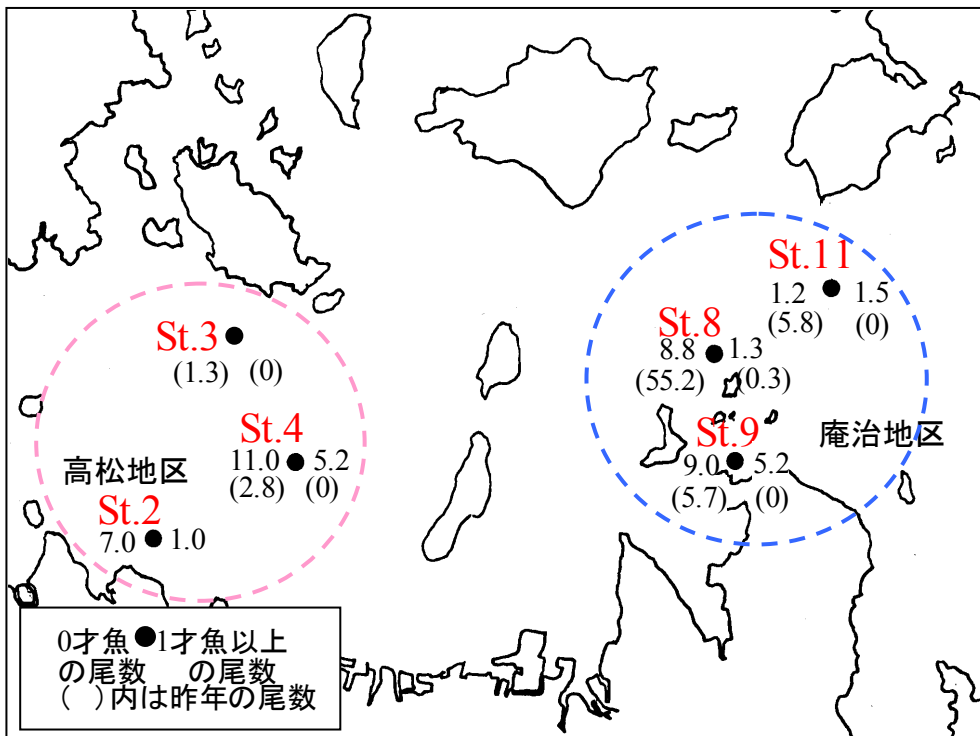


図 1 調査地点ごとの親魚密度（空釣りこぎ 1 回あたりの採集尾数）

2. イカナゴ親魚の全長組成

全長測定の結果を図2, 3に示した。

今年の平均全長は0才魚が78.9 mm (n=204), 1才魚が127.2 mm (n=82)であった。

平成23年度

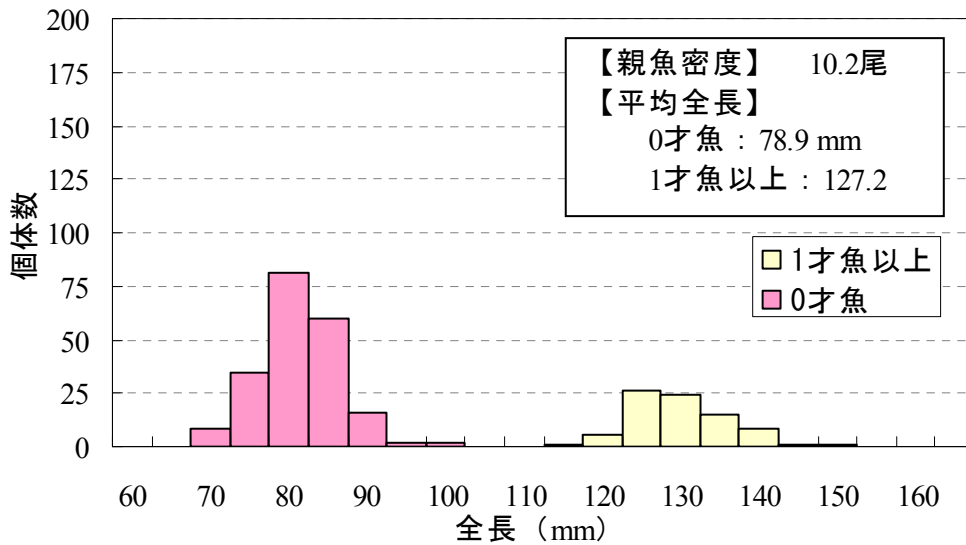


図2 イカナゴ親魚の全長組成 (平成23年12月)

平成22年度

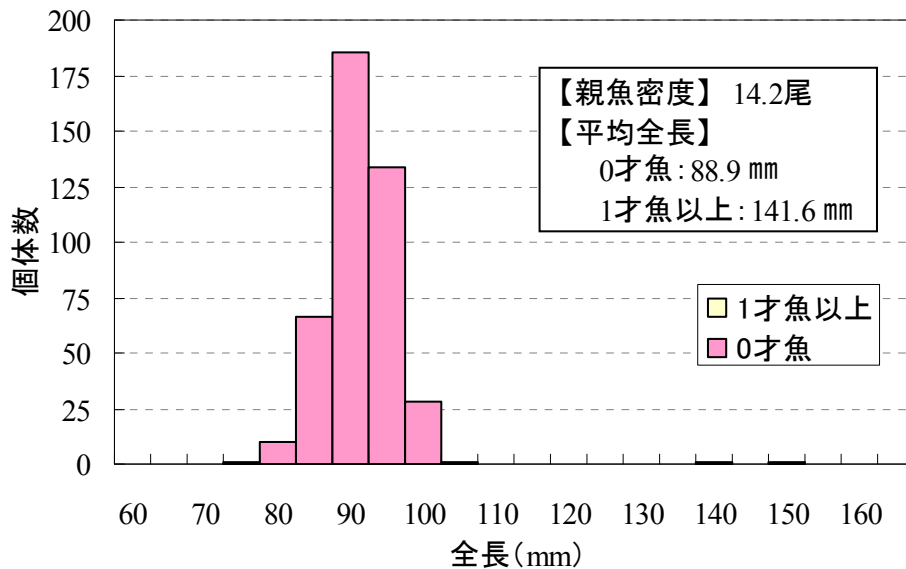


図3 イカナゴ親魚の全長組成 (平成22年12月)

3. 産卵状況

メス親魚の生殖腺熟度指数 (GSI (%)) = 生殖腺重量 ÷ 体重 × 100 の推移を図4に示した。メス親魚の生殖腺熟度指数は0才魚, 1才魚以上とも12月27日は12月20日に比べて減少した。

メス親魚の生殖腺の成熟状況を図5 (0才), 図6 (1才) に示した。成熟状況は, ①未成熟: 生殖腺が糸状, 検鏡によりメスと判別した個体, ②熟卵: 生殖腺が発達, 卵の色調は黄色, ③完熟卵: 卵の色調は吸水現象により透明, 放卵中および放卵済み個体も含むの3段階に区分した。0才魚, 1才魚以上とも12月20日から27日にかけて完熟卵の割合が増

加した。0才魚では、高松、庵治ともに、例年に比べ未成熟個体の割合が高かった。

生殖腺熟度指数の推移および成熟状況から、今年の産卵盛期は12月下旬～1月上旬であると推測される。

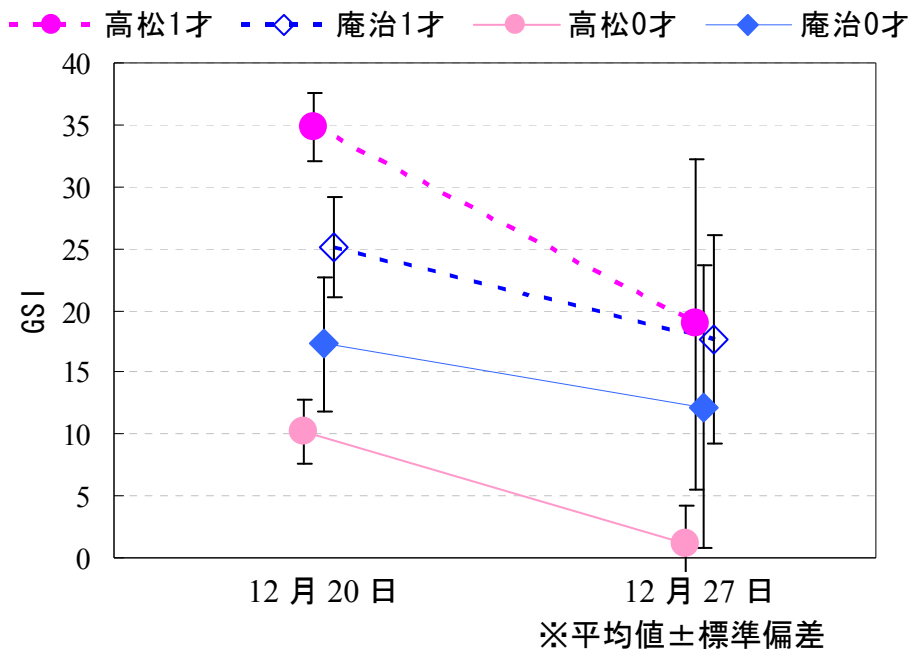


図4 イカナゴ親魚（メス）の生殖腺熟度指数

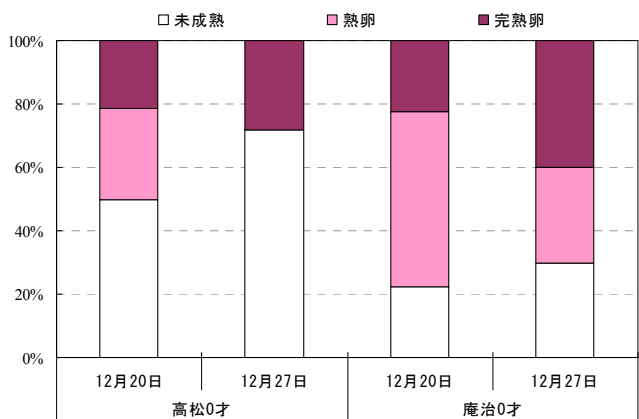


図5 イカナゴ親魚（メス,0才）の成熟状況

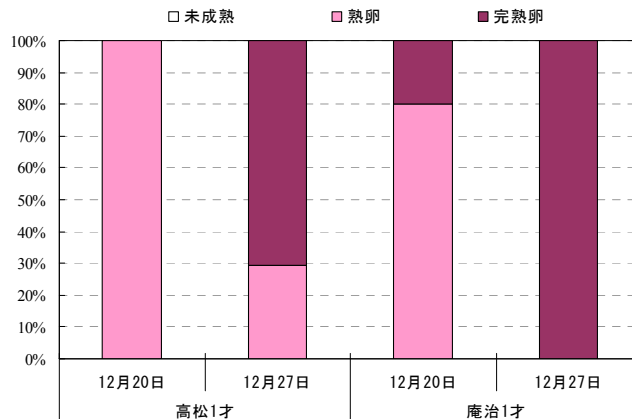


図6 イカナゴ親魚（メス,1才）の成熟状況

4. 今後の予定

○稚仔の出現状況調査

備讃瀬戸及び播磨灘の23調査地点において、1月前半、後半及び2月前半の3回実施予定。

○イカナゴ新仔（シンコ）情報の公表：2月中旬頃を予定